



# untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

## 神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

### contents

保育の無償化	.....	1面
新役員紹介	.....	2面
湘南福祉フェス	.....	3面
活動報告	—高齡研究委員会研修会—	..... 3・4面
	—障害研究委員会研修会—	..... 4・5面
	—令和元年度第1回総会、研修会—	..... 5・6面
お知らせ	—今後の予定・新入会員紹介・会員数—	..... 6面

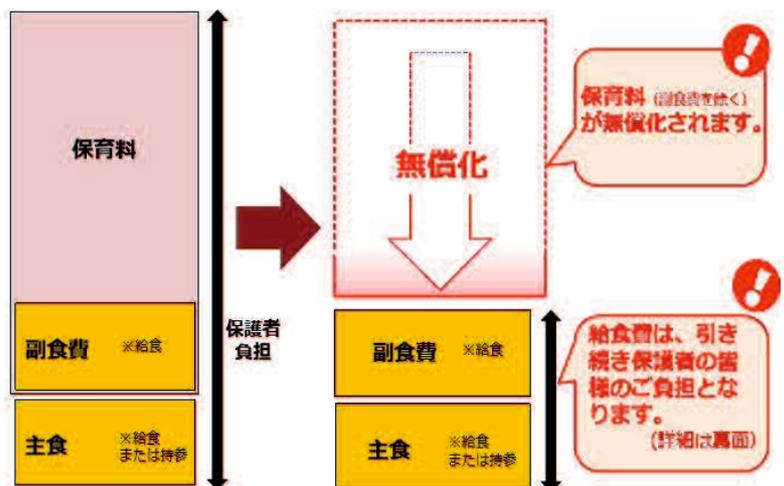
## 保育の無償化

令和元年10月1日より、消費税が8%から10%へ引き上げられます。そして、幼児教育・保育の無償化が始まります。この制度による施設業務で変わること、また、子どもをあずける保護者側は何が変わるのでしょうか。

保護者側では、3歳以上児クラスに在籍している子どもの保育料がかからなくなります。ただ、今まで保育料に含まれ支払っていた副食費については、今後も支払う必要があります。金額については、施設によりまちまちですが、概ね国基準の4,500円としているところが多いようです（一部世帯においては免除制度有）。元々保育料に含まれていなかった主食費については従来通り徴収する、徴収しない代わりに主食を持ち込む、自治体が負担する等の対応となっています。

施設業務では、副食費の徴収が発生します。現金、口座振替、コンビニ支払、PayPay等で対応します。この徴収業務について保育園側から心配ごととして多く聞かれるのは、滞納世帯への対応です。今までは、保育料の未払いや滞納世帯への督促業務は自治体が行っていて、未払いの保育料を立替え、保育園側には遅延なく支払われていましたが、10月以降は各施設で対応、負担することになります。

最後に無償化がスタートしてから、数カ月経過しないと分からないことの方が多いとは思いますが、思っていたより苦労はなかったと、言えることを願っています。



【保育研究委員 磯野一途】

# 新 役 員 の 紹 介



会長  
田代 鉄也  
(喜寿福祉会)



副会長 (総務広報担当)  
甘利 悟  
(誠々会)



副会長 (研修担当)  
真壁 洋道  
(真幸会)



副会長 (研修担当)  
井田 友花  
(三神会)



副会長 (総務広報担当)  
福原 高洋  
(福寿会)



監事  
森 弘樹  
(富士見)



監事  
栗田 義晃  
(栗山会)



幹事 (研修委員長)  
平本 剛士  
(さくら会)



幹事 (総務広報委員長)  
石川 友紀  
(泉正会)



幹事 (高齢研究委員長)  
坂本 陽二郎  
(たちばな福祉会)



幹事 (保育研究委員長)  
磯野 一途  
(あららぎ福祉会)



幹事 (障害研究委員長)  
武藤 祐生  
(愛の森)



幹事 (会計)  
平本 秀真  
(愛成会)

# 湘 南 福 祉 フ ェ ス

令和元年6月8日(土) 平塚プレジールにおいて「湘南福祉フェス」が開催されました。これは今までの就職相談会とは異なりふれあいカフェ、福祉体験また相談会終了後には男性ボーカル&手話パフォーマーの「HANDSIGN」のミニコンサートも用意されており、ボリューム満点の企画でした。



出展の様子

(福)神奈川県社会福祉協議会 経営者部会人材確保プロジェクト主催、かながわ福祉人材センターの共催で、昨今の介護・保育等の人材不足の解消を狙い、まずは福祉に興味を持ってもらおうというコンセプトでスタートし「見て・触れて・楽しんで福祉を知ってつながる世界」をテーマとしました。14 法人が平塚に集結、ブースを構え来訪者に福祉の魅力をお伝えしました。その他、福祉機器や介護ロボットの紹介などもあり、最後にはコンサートという流れで有意義な湘南の休日となりました。

この第一歩を足掛かりに様々な企画を立案し、人材不足を解決していきたいと思えます。

【総務広報委員 甘利 悟】

## 活 動 報 告

### 高齢研究委員会研修会

令和元年6月21日(金)に横浜市瀬谷区にある、社会福祉法人愛成会が運営するユニット型の特別養護老人ホーム愛成苑を視察しました。

現在、多くの業界で人材が不足しており、私たちの介護業界でも、2025年に介護職員が約34万人不足すると国も試算しています。この先の状況を打開すべく今回は『人材』をテーマに研修会を行いました。

国は東南アジア諸国からEPA(経済連携協定)で介護福祉士候補者の受け入れ、また技能実習生の受け入れも進めています。私たちはこの制度に資することと併せて人材不足の解消に活用できるよう積極的な外国人材の受け入れに取り組んでおります。

今回、視察・研修会の受入れをしてくださった愛成苑は長期入所、短期入所合わせて定員100床の施設です。法人全体で13名の外国籍の方が就労しており、平成28年度よりEPAの制度を利用して、現在は8名のベトナム国籍の方が就労しているとのことでした。

実際にEPAの介護福祉士候補者の方々から話を聞くことができ、候補者の方々からは、「記録や専門用語は難しいけれど、日本人の先輩が工夫して丁寧に教えてくれるから助かる」、「介護の仕事でレクリエーションやイベント等で利用者の笑顔が見られると嬉しい」等の話が多く聞かれました。受入れをしている職員の皆様からは、「受入れ前は文化や言葉の違い等で不安はありましたが、実際に一緒に働くと職員のコミュニケーション能力が向上し、職場により活気が生まれた」等の前向きな話を聞くことができました。



研修風景

日本が迎える超高齢社会に、ご利用者・ご家族、そして職員が『安心・安全』に生活・仕事ができるよう、私たち、社会福祉法人の職員がやるべきことを学べた、とても貴重な視察研修でした。

このたび、受入れをしてくださった愛成苑の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【研修委員 大畑 直】

## 障害研究委員会研修会

令和元年7月4日（木）社会福祉法人素心会「地域支援センターそしん」にて本年度第1回の障害研究委員会を開催しました。

今回のテーマは、経営青年会卒会員で素心会の萩原理事長からのご提案で、現会員と「入所施設のあり方」について意見交換会を行うこととなりました。

※ 参加者は以下のとおり（氏名に\_\_\_\_\_は現会員）

素心会 萩原・長谷川・磯崎・西垣 聖音会 佐竹昇平・佐竹泰三

福慶会 関水 光友会 松井 小田原支援センター 望月 浄泉会 岡部 愛の森 武藤

（萩原）今の障害福祉の流れは、入所施設の定員削減や新たに入所施設は作らない方向である。入所施設の施設長やそこで働く人から、入所施設のあり方について話を聞きたい。

（武藤）入所施設の経営は年々厳しくなっている。今年度は神奈川県と各市町村が拠出する補助金の障害者地域生活サポート事業において、施設入所支援に対するメニュー事業が大幅に縮小、また重度障害者支援加算Ⅱの経過措置が切れるなど、減収は大変な問題である。

施設入所支援から地域生活支援へという流れは鮮明であるが、グループホームの運営は、報酬が少ないことや災害時支援の脆弱などリスクは高い。入所施設に入ったからといって、そこが終の棲家ではない。意思決定支援に基づいて他の施設やホームに移ることができる。事業者も利用者も柔軟に考えるべきである。



意見交換会の様子

（長谷川）入所施設の素心学院では、入所者の平均年齢は58歳ではあるが最高齢93歳で利用者の多くは高齢化と重度化に伴う医療ケアが課題である。また同法人内でグループホームの運営もしているがホーム入居者の高齢化と医療的ケアも大きな課題である。入所施設もグループホームもやっていることは変わりなく、定員が大きい小さいかの差である。

（関水）入所施設には既得権も多く報酬もサービスも手厚い、それに比べホームはまだ脆弱である。本来であればホームでの生活の方がより個人に対して多様性のある充実したサービスを提供できる。入所施設はいくらサービスの質を高めても支援は画一的になるため個人への理想的なサービスにならない。今後入所のサービス単価が下がって行き、ホームの単価を上げていけば地域移行は必然的に進むと考える。ホームの基準も定員20名が認められるようになった。徐々に入所施設は地域移行して行かろう。

（松井）定員20名の日中支援型ホームを計画中である。それに伴い、施設入所を60名から50名に減員して、ホームへ移行する予定であるが思いのほか希望者が少ない。20名のホームと入所施設の違い、入所からホームに移って何がかわるのか、どのように利用者さんに説明するか検討している。

（望月）就労サービスとグループホームを運営しているが、利用者さんの中には、ホームの生活が厳しくなり入所施設に移行する方、就労系の作業が厳しくなり入所施設に移行する方が必ずでてくる。そのような方々への受

け皿として入所施設のニーズは必ずある。

(佐竹昇平) 入所施設とグループホームのどちらがいいという議論ではない。利用される方がどちらを選ぶかということ。サービス内容を丁寧に説明することが大切である。入所施設の役割は多岐に渡る。利用者支援だけでなく、地域の拠点として、防災・防犯、相談事業や生活困難者支援など、入所施設という大きな母体だからできるということが沢山ある。

(佐竹泰三) 入所施設に入居する利用者さんは、自分で希望した方は殆どいない。親族が希望して入所される方が殆どである。ホーム入居者も同じ様な経緯で入居されることが多い。多くの方は親・兄弟などの関わりの喪失(亡くなるなどで本人の面倒が見れなくなる)で、本人自身も大きく変化していく中、その不安定な状態の本人を受け止める機能として入所施設は必要である。入所施設もホームもそれぞれの機能とあり方がある。どちらかは要らないではなくて、どちらもニーズがあり必要である。

(萩原) 皆さんから貴重なご意見を聞くことが出来た。現行の入所施設の機能を考えると、入所施設は現状維持であるべきという結論かと思う。しかしその反面で入所施設もグループホームも難しいケースがあるのも現実である。本当は入所施設として困難なケースの受入れもしていかなければ入所施設の必要論になってしまうのではという危惧を感じる。

約 2 時間、この入所施設のあり方だけでなく障害者支援を多岐に渡った意見交換が行われ、とても有意義な会となりました。また機会があれば引き続き行ないたいと思いました。ありがとうございました。

【障害研究委員 武藤祐生】

## 令和元年度第 1 回総会

令和元年 6 月 25 日、ホテル横浜キャメロットジャパンにて第 1 回 神奈川県社会福祉法人経営青年会総会が開催されました。冒頭、田代会長の挨拶後、出席 23 名、委任状提出 36 名の全会員数の過半数を満し総会の成立を確認しました。

議長は峰延会佐々木氏が全会一致で任命され議事を進行しました。第 1 号議案平成 30 年度事業報告(案)について、第 2 号議案平成 30 年度収支決算報告(案)についてはそれぞれ全会一致で承認されました。

議事終了後、平成 30 年度をもって卒会された方へ感謝状の贈呈を行いました。対象者は次の方です。



総会風景

岩澤貞之 様 (西久保福祉会) 遠藤和宏 様 (大和しらかし会)  
柿原建男 様 (白百合会) 鈴木秀一 様 (慶優会)  
高松紀子 様 (喜寿福祉会) 山本昇 様 (山栄会)  
湯川嘉一 様 (静友会)

長い間、会の発展のためにご尽力いただきありがとうございました。今後のご活躍と所属法人の益々の発展をお祈りいたします。

最後に新入会員の紹介を行い、14 時に終了いたしました。

【総務広報委員 広嶋 稔之】

## 総会研修会

令和元年 6 月 25 日 (火) に研修会を開催し、講師に「株式会社アクシア」代表取締役の米村歩様をお招きして『完全残業ゼロの働き方改革』をテーマに講演いただきました。

米山歩様は中堅ソフトウェア、フリーランスを経て株式会社アクシアを設立。2012年までは株式会社アクシアでも長時間労働が常態化していたが、2012年10月から残業ゼロを継続されており、2017年3月にはホワイト企業アワードの労働時間削減部門で対象を受賞されています。

今回の講演では、IT業界では残業が多く休日出勤が多い中、どのようにして残業ゼロ改革を実施したかについての講演をいただきました。残業の原因には複数の要因があり、ただ業務効率だけを良くすれば残業がなくなる訳ではないとのことでした。仕事の見える化や標準化など、様々な視点から業務を見直すことが大事であるということが改めて実感することが出来ました。今年度から働き方改革が実施され、さらに今後労働人口の減少していく中で、現在の仕事を維持・向上するためには、仕事の在り方を見直さなければなりません。今回の講演は、そういった意味で長時間労働が常態化しているIT業界の中でも残業ゼロを実現することができたということで、どんな業界でも実現することは可能であると感じました。私たち社会福祉法人の職員は、困っている人を助けたり、寄り添ったりすることが仕事です。その職員の業務負担軽減ができるよう取り組んでいきたいと思えます。

【研修委員 川島 達郎】

## お知らせ

### 今後の予定

詳細については、案内書、またはホームページでご確認ください。

開催日	場所等	テーマ等
令和元年10月16日(水)～17日(木)	吉池旅館(箱根)	令和元年度合同宿泊研修会
令和元年11月7日(木)～8日(金)	ホテルメルパルク名古屋	第23回社会福祉法人経営青年会全国大会
令和2年2月	埼玉	関東甲信越静岡ブロック

### 新入会員紹介

新たに入会された会員を紹介します。

関勝之様(奉優会) 吉川千夏様(中心会) 田澤勇希様(楠会) 白坂雅美様(横浜来夢会)  
鈴木正貴様(いきいき福祉会) 近野英明様(開く会)

### 会員状況

99名 法人数74法人 (令和元年9月30日現在)

### 編集後記

皆様、お忙しいところ広報誌の原稿作成にご協力いただきありがとうございました。今回は、上半期の活動報告がメインとなりました。研究委員会をはじめ、皆さんが活発に活動していて、とても刺激になりました。また、湘南福祉フェスの開催等、青年会の活動も幅広くなりました。引き続き、会員の皆様にとって有益な広報誌となるよう総務広報委員一同努めてまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。(Yuki Ishikawa)

発行/神奈川県社会福祉法人経営青年会  
連絡先/〒221-0844  
横浜市神奈川区沢渡4-2  
神奈川県社会福祉会館内  
(福)神奈川県社会福祉協議会  
福祉サービス推進部  
電話:045-311-1424  
Fax:045-320-4077